

長浜企業景況調査報告書

(第26回)

令和4年10月～令和4年12月 実績
令和5年 1月～令和5年 3月 見通し

Index

01 長浜企業景況調査について・長浜企業景況調査の見方について

02 全体の景況感（総括）

03 全体の動向

04 調査項目別 DIの推移

05 業種別 業況DIの推移

06 卸売業の動向

07 小売業の動向

08 サービス業の動向

09 建設業の動向

10 製造業の動向

11 設備投資の計画状況

12 新型コロナウイルス、原材料価格上昇、世界情勢に係る影響

14 業種別自由意見

16 【参考】滋賀県景況調査結果報告書

長浜企業景況調査について

1) 調査対象期間・調査時点

調査対象期間：令和4年10月～12月

調査時点：令和5年1月1日

2) 調査方法

長浜商工会議所会員企業 220 社への FAX 方式・メール方式による調査

3) 調査対象企業数

220 社(内訳は下表の通り)

4) 報告者

中小企業診断士 川副 郷一郎

	調査対象企業数		有効回答企業数		回収率
	企業数	構成比	企業数	構成比	
卸売業	24	10.9%	18	13.7%	75.0%
小売業	40	18.2%	25	19.1%	62.5%
サービス業	70	31.8%	37	28.2%	52.9%
建設業	32	14.5%	16	12.2%	50.0%
製造業	54	24.6%	35	26.7%	64.8%
合計	220	100.0%	131	100.0%	59.5%

長浜企業景況調査の見方について

1) DI 指数について

- ①調査結果を示す指数として DI 指数を採用しています。この数値は Diffusion Index（景気動向指数）の略で各調査項目について「増加」・「好転」などとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を引いた数値です。
- ②調査項目のうち、「業況(自社)」「売上高」「採算(経常利益)」「資金繰り」「従業員」「販売価格」「仕入価格」「業界動向(同業他社)」「長・短期資金借入難易度」「受注動向(建設業)」「在庫量(製造業)」の DI 指数は前年同期と比較しています。
- ③「取引の問合せ」と「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は前年同期比較ではなく調査対象期間の水準を評価した数値です。

2) DI 指数の見方について

- ①DI 指数がプラスであれば好調の企業数が不調の企業数を上回っていることを意味し、プラスの値が大きいほど「好調」の企業割合が多く「景気がよい」と判断されます。マイナスであれば「不調」の企業割合が多く「景気が悪い」と判断されます。
- ②この DI 指数を前期(四半期)、今期、来期(見通し)とグラフで示すと、その傾向を読み取ることができます。即ち改善方向か悪化方向かという方向感や景気の良い・悪いの推移動向が判断できます。
- ③業況 DI は経営者の景況感を反映しています。主観的な要素も入りますが、売上高や収益動向で判断される傾向が強いため経済活動の実態とよく一致しているといわれています。
- ④資金繰り DI は概ね景気循環と連動していますが、政策の影響が景気の低迷期で認められています。緊急融資制度や金融円滑化法などの政策が資金繰り DI に影響を与えることがあります。
- ⑤小売業は売上高 DI、卸売業は資金繰り DI、サービス業は従業員 DI の推移が業種別に注目する指数です。
- ⑥建設業は季節による影響が業況 DI に認められています。これは公共工事との連動のため1～3月期は総じて低調な傾向となります。

3) 設備投資の見方について

- ①好景気では「生産力増加」「合理化省力化」投資が増加し、景気の後退期では「設備更新」投資の割合が増える傾向にあります。特に製造業は「好調」「不調」の影響を受けます。

全体の景況感（総括）

「景況感は、一進一退ながらも緩やかに持ち直している」

今期

全体の業況DIは、6.1と新型コロナウイルス感染第8波の影響があったものの前四半期（7-9月期）の▲2.9から9.0ポイント良化した。前期に比べ売上高DI（10.0、前期比+7.1）が良化し、採算（経常利益）DI（▲13.1、同+2.7）が改善した。

一方、販売価格DI（48.5）は8期連続で良化し、少しずつ価格転嫁が進んでいる。仕入れ価格DI（77.0）は僅かながら下降した。従業員DIは29.7（同+8.1）で不足感が強まった。

業種別にみると、業況DIは製造業（同+16.4）、建設業（同+0.4）、サービス業（同+0.2）がプラス圏且つ良化し、卸売業（同+20.7）と小売業（同+12.7）がマイナス圏ながら改善した。

卸売業では、業況DIが前期▲26.3から▲5.6へ改善した。売上高DIは同▲21.1から▲5.6へ、採算（経常利益）DIは同▲36.8から▲22.2へともに改善した。販売価格DI（61.1）は7期ぶり、仕入れ価格DI（88.9）は9期ぶりにともに上昇幅が縮小した。

小売業では、業況DIが前期▲16.7から▲4.0へ改善した。売上高DIは同▲16.7からもちあい（0.0）へ、採算DIは同▲37.5から▲24.0へともに改善した。販

次期の見通し

次期（2023年1-3月期）の全体の業況DIは▲5.5で、今期の6.1から11.6ポイント悪化する見通しで、売上高DI（今期10.0→次期▲4.7）及び採算DI（同▲13.1→同▲19.5）もともに悪化する見通しとなった。

業種別では、業況DIは前期に比べ全業種で悪化し、プラス圏はサービス業のみで他の4業種はマイナス圏の見通しとなった。卸売業は、売上高DI（▲38.9）、採算DI（▲44.4）がともに悪化することから、業況DI（▲33.3）は悪化する見通しとなった。小売業は、売上高DI（0.0）は横ばい、採算DI（▲20.0）は改善するも業況DI（▲8.0）は悪化する見通しとなった。

総評

前年同期（2021年10-12月期）は新型コロナウイルス感染状況が落ち着いた時期だったのに対し、今期は過去にない感染者数を記録する第8波と重なった。しかし、10月から始まった全国旅行支援や11月中旬からス

売価格DI（76.0）は6期連続で上昇、仕入れ価格DI（92.0）は再び上昇とともにコロナ禍以降最も高い数値を更新した。

サービス業では、業況DIが前期21.4から21.6へ良化した。売上高DIは同23.8から21.6へ、採算DIは同14.3から2.7へともに悪化した。販売価格DIは同22.0から30.6へ良化、仕入れ価格DIは同56.4から50.0へ上昇幅が縮小した。

建設業では、業況DIが前期5.9から6.3へ良化した。売上高DIは同11.8から13.3へ良化し、受注動向DIは同11.8から▲6.7へ悪化した。採算DIは同▲5.9から▲6.3へ悪化した。

製造業では、業況DIが前期▲13.5から2.9へ良化した。売上高DIは同もちあい（0.0）から11.4へ良化し、採算DIは同▲29.7から▲20.6へ改善した。在庫量DIは同12.9から23.3へ増加した。

なお、従業員DIは、建設業（62.5、前期比+3.7）、卸売業（35.3、同+24.8）、サービス業（27.8、同+4.0）、製造業（26.5、同+4.9）、小売業（12.0、同+12.0）の順に全業種で不足感が強まった。

これは、良化し続けてきた販売価格DIが7期ぶりに上昇幅が縮小する見通しであることが起因していると思われる。サービス業は、売上高DI（5.9）及び採算DI（▲2.9）がともに悪化することから業況DI（15.2）は悪化するも全業種の中で唯一プラスを維持する見通しとなった。建設業は、売上高DI（▲18.8）、採算DI（▲18.8）、受注動向DI（▲26.7）がいずれも悪化するため、業況DI（▲12.5）は悪化する見通しとなった。製造業は、売上高DI（5.7）、採算DI（▲22.9）がともに悪化するため、業況DI（▲5.7）は悪化する見通しとなった。

ターゲットとした“しが割”、秋の長浜市PayPayキャンペーンといった個人消費喚起策や各種イベントの再開、入国制限の緩和などにより個人消費に活気が戻ってきた時期でもあった。

このような社会情勢の中、前期に悪化した業況DIは今期再び良化した。特に、卸売業、製造業、小売業の改善幅が二桁となった。しかし、次期の業況DIは再び悪化する見通しで、景況感は一進一退が続いている。

さて、全体の販売価格DIが微増にとどまる一方、仕入れ価格DIは高止まりのままである。中でも小売業は、販売価格DI（76.0、前期比+9.3）がコロナ禍以降最も高い数値になったものの、仕入れ価格DI（92.0、同+17.0）も同様に最も高い数値を更新した。また、製造業の販売価格DI（28.6、同-13.1）は全業種中最も低く2期連続で悪化、製造業の価格転嫁が進んでいない。

次に、従業員DIの動きに注目すると、卸売業と小売業は前期に比べDIが二桁増加し不足感が急に強まり、建設業は3期連続、製造業は2期連続で不足感が

強まっている。長期トレンドで見ると、全体で9期連続“不足感”が続いている。新型コロナウイルス感染拡大による自宅待機者の増加と重なり生産性は低下しているものと思われる。

全体の採算（経常利益）DIが6期連続でマイナスを続けているように、原材料高や円安による企業物価高騰、賃金上昇圧力などコスト負担が続くなかで収益確保に苦慮する姿が窺われる。

一方、「設備投資の計画状況」調査結果によると、設備投資が「ある」と答えた企業の割合は28.2%で前期比0.3ポイント増加したが、「計画通り行う」と答えた割合は70.3%で前期比0.8ポイント減少した。投資内容を見ると景気回復期に強まる「生産力増加」投資と「合理化・省力化」投資の合計が37.8%と前期比4.3ポイント減少した。設備投資意欲はやや強まったものの能力増強投資には慎重な姿勢が窺われる。

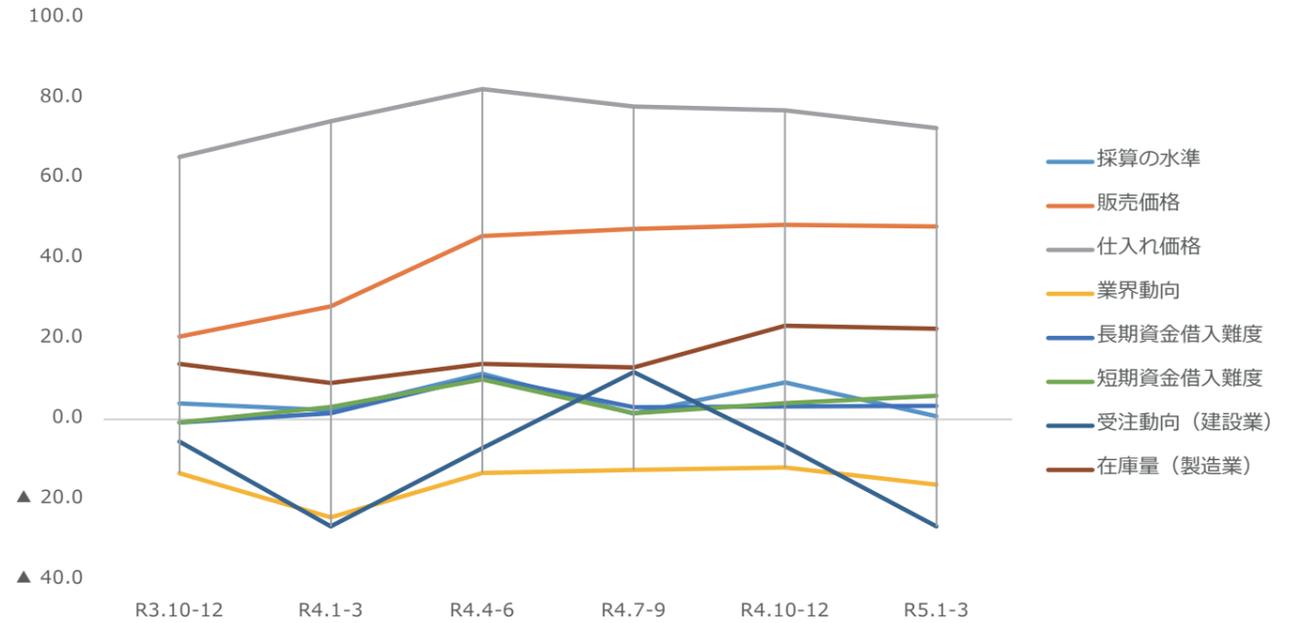
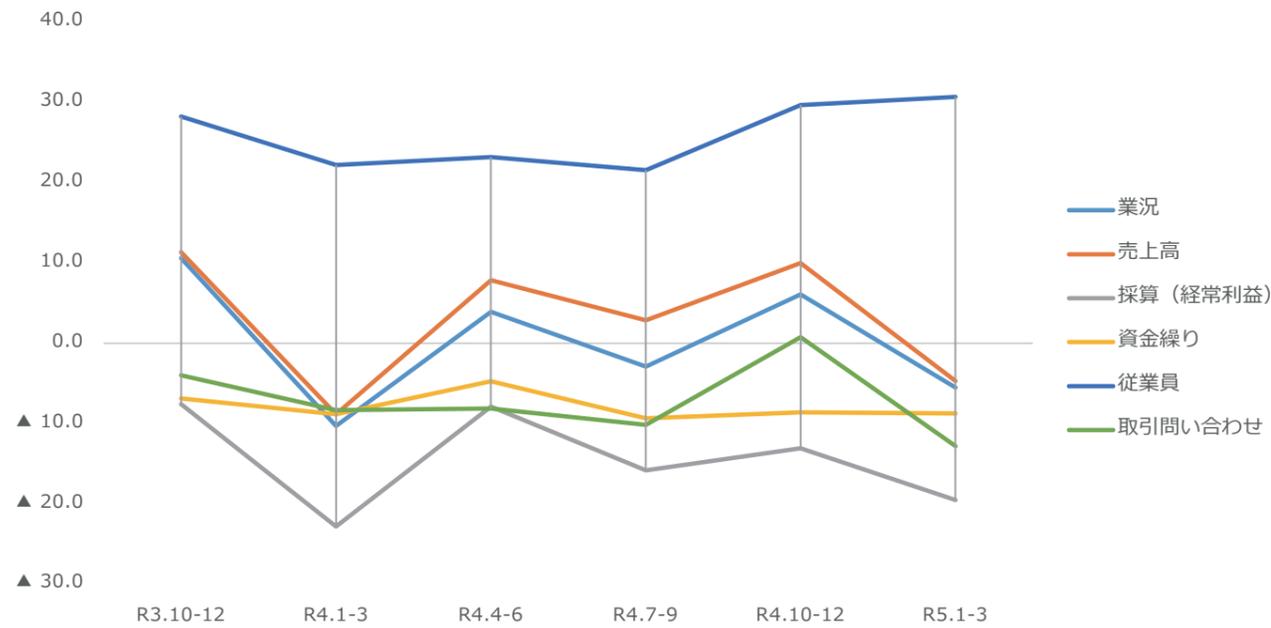
全体の動向

業況	DI指数は前期▲2.9から今期6.1と9.0ポイントの良化で、次期の見通しは▲5.5と悪化する予測となっている。
売上高	DI指数は前期2.9から今期10.0と7.1ポイントの良化で、次期の見通しは▲4.7と悪化する予測となっている。
採算（経常利益）及びその水準	採算のDI指数は前期▲15.8から今期▲13.1と2.7ポイントの改善で、次期の見通しは▲19.5と悪化する予測となっている。また、採算の水準のDI指数は前期1.4から今期9.2と7.8ポイントの良化で、次期の見通しは0.8と悪化する予測となっている。
資金繰り	DI指数は前期▲9.4から今期▲8.6と0.8ポイントの改善で、次期の見通しは▲8.7と悪化する予測となっている。
従業員	DI指数は前期21.6から今期29.7と8.1ポイント人手不足感が強まり、次期の見通しは30.7とさらに不足感が強まる予測となっている。
販売価格及び仕入れ価格	販売価格のDI指数は前期47.4から今期48.5と1.1ポイント良化し、次期の見通しは48.0と上昇幅が縮小する予測となっている。また、仕入れ価格のDI指数は前期77.9から今期77.0と0.9ポイントの下降で、次期の見通しは72.6とさらに上昇幅が縮小する予測となっている。
業界動向	DI指数は前期▲12.6から今期▲12.0と0.6ポイントの改善で、次期の見通しは▲16.3と悪化する予測となっている。
受注動向（建設業）	DI指数は前期11.8から今期▲6.7と18.5ポイントの悪化で、次期の見通しは▲26.7とさらに悪化する予測となっている。
在庫量（製造業）	DI指数は前期12.9から今期23.3と10.4ポイントの増加で、次期の見通しは22.6と減少する予測となっている。

調査項目別 DIの推移

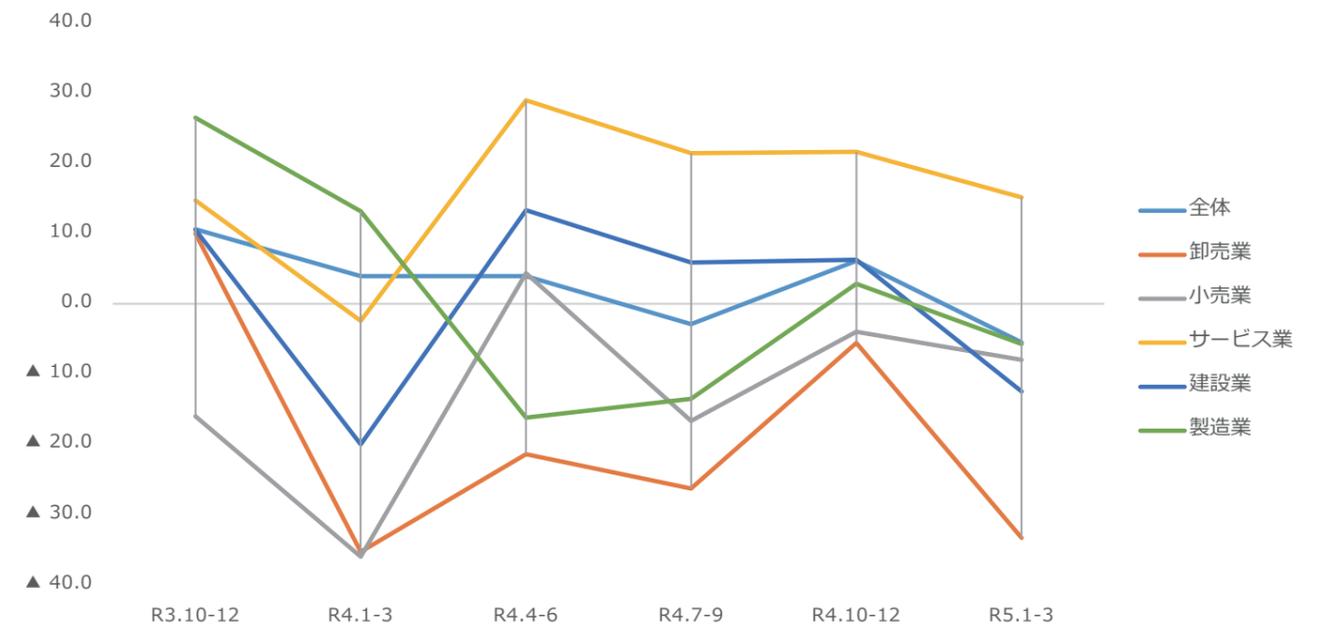
	R3.10-R3.12	R4.1-R4.3	R4.4-R4.6	R4.7-R4.9	R4.10-R4.12	R5.1-R5.3 見通し
業況	10.6	▲ 10.3	3.9	▲ 2.9	6.1	▲ 5.5
概況 (前期比較)※1	○	×	○	×	○	×
売上高	11.4	▲ 8.8	7.9	2.9	10.0	▲ 4.7
採算 (経常利益)	▲ 7.6	▲ 22.8	▲ 7.9	▲ 15.8	▲ 13.1	▲ 19.5
資金繰り	▲ 6.9	▲ 8.8	▲ 4.7	▲ 9.4	▲ 8.6	▲ 8.7
従業員	28.2	22.2	23.2	21.6	29.7	30.7
取引の問い合わせ	▲ 4.0	▲ 8.3	▲ 8.1	▲ 10.1	0.8	▲ 12.8
採算の水準	3.9	2.3	11.4	1.4	9.2	0.8
販売価格	20.6	28.1	45.7	47.4	48.5	48.0
仕入価格	65.4	74.2	82.3	77.9	77.0	72.6
業界動向	▲ 13.4	▲ 24.4	▲ 13.3	▲ 12.6	▲ 12.0	▲ 16.3
借入難易度 (長期)	▲ 0.8	1.5	10.7	3.0	3.2	3.3
借入難易度 (短期)	▲ 0.8	3.1	9.9	1.5	4.0	5.9
受注動向 (建設業)	▲ 5.6	▲ 26.7	▲ 7.1	11.8	▲ 6.7	▲ 26.7
在庫量 (製造業)	13.8	9.1	13.8	12.9	23.3	22.6

※1 業況 DI の前期と比較し、改善であれば○、横ばいであれば△、悪化であれば × になります。



業種別 業況 DIの推移

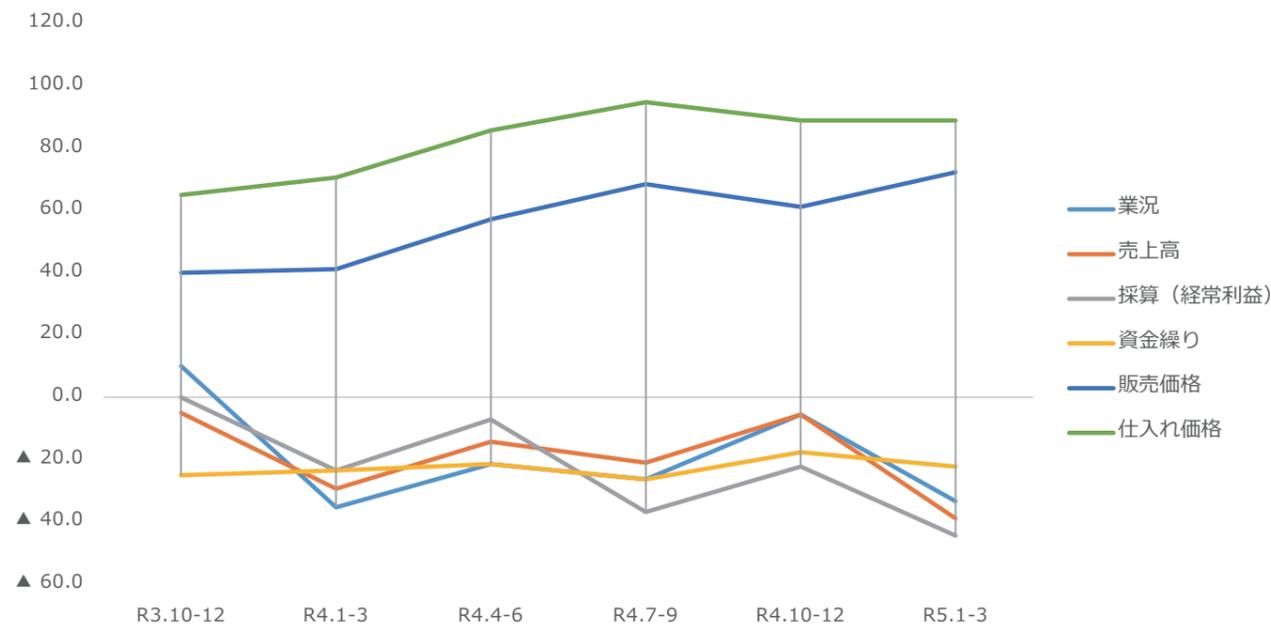
	R3.10-R3.12	R4.1-R4.3	R4.4-R4.6	R4.7-R4.9	R4.10-R4.12	R5.1-R5.3 見通し
全体	10.6	▲ 10.3	3.9	▲ 2.9	6.1	▲ 5.5
卸売業	10.0	▲ 35.3	▲ 21.4	▲ 26.3	▲ 5.6	▲ 33.3
小売業	▲ 16.0	▲ 36.0	4.3	▲ 16.7	▲ 4.0	▲ 8.0
サービス業	14.7	▲ 2.4	28.9	21.4	21.6	15.2
建設業	10.5	▲ 20.0	13.3	5.9	6.3	▲ 12.5
製造業	26.5	13.2	▲ 16.2	▲ 13.5	2.9	▲ 5.7



卸売業の動向

業況	DI 指数は前期▲26.3 から今期▲5.6 と 20.7 ポイントの改善で、次期の見通しは▲33.3 と悪化する予測となっている。
売上高	DI 指数は前期▲21.1 から今期▲5.6 と 15.5 ポイントの改善で、次期の見通しは▲38.9 と悪化する予測となっている。
採算（経常利益）	DI 指数は前期▲36.8 から今期▲22.2 と 14.6 ポイントの改善で、次期の見通しは▲44.4 と悪化する予測となっている。
資金繰り	DI 指数は前期▲26.3 から今期▲17.6 と 8.7 ポイントの改善で、次期の見通しは▲22.2 と悪化する予測となっている。
販売価格及び仕入れ価格	販売価格の DI 指数は前期 68.4 から今期 61.1 と 7.3 ポイント上昇幅が縮小し、次期の見通しは 72.2 と良化する予測となっている。仕入れ価格の DI 指数は前期 94.7 から今期 88.9 と 5.8 ポイントの上昇幅の縮小で、次期の見通しは 88.9 と横ばいの予測となっている。

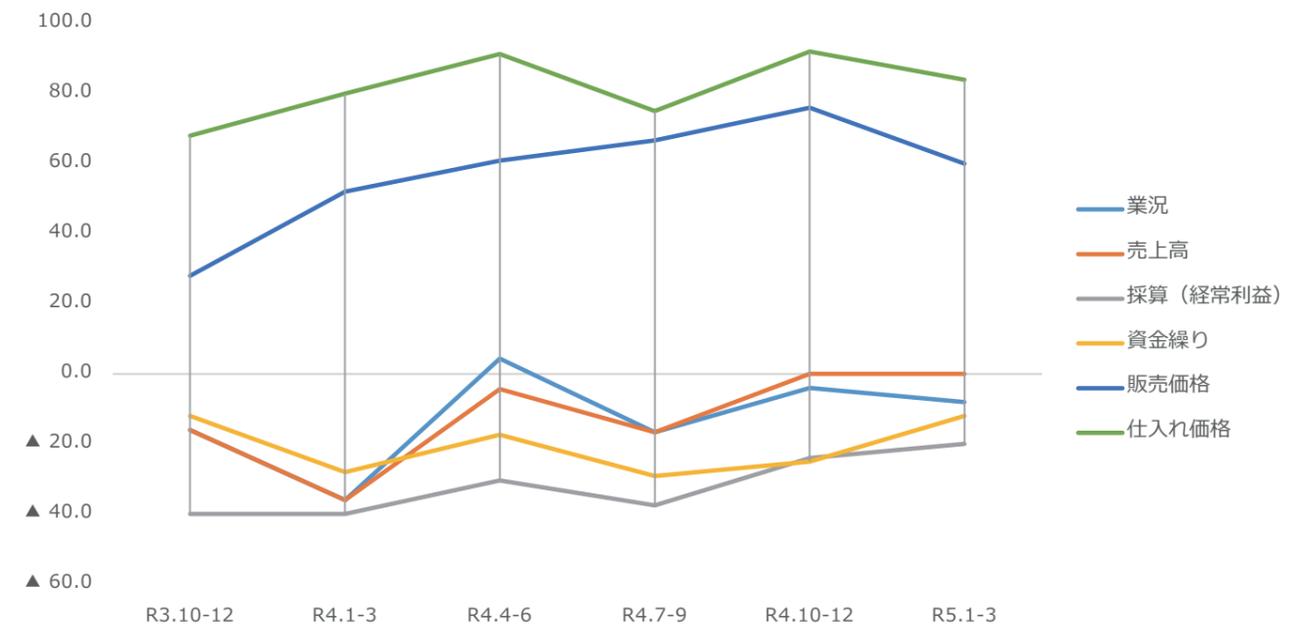
	R3.10-R3.12	R4.1-R4.3	R4.4-R4.6	R4.7-R4.9	R4.10-R4.12	R5.1-R5.3 見通し
業況	10.0	▲ 35.3	▲ 21.4	▲ 26.3	▲ 5.6	▲ 33.3
売上高	▲ 5.0	▲ 29.4	▲ 14.3	▲ 21.1	▲ 5.6	▲ 38.9
採算（経常利益）	0.0	▲ 23.5	▲ 7.1	▲ 36.8	▲ 22.2	▲ 44.4
資金繰り	▲ 25.0	▲ 23.5	▲ 21.4	▲ 26.3	▲ 17.6	▲ 22.2
販売価格	40.0	41.2	57.1	68.4	61.1	72.2
仕入れ価格	65.0	70.6	85.7	94.7	88.9	88.9



小売業の動向

業況	DI 指数は前期▲16.7 から今期▲4.0 と 12.7 ポイントの改善で、次期の見通しは▲8.0 と悪化する予測となっている。
売上高	DI 指数は前期▲16.7 から今期もちあい (0.0) と 16.7 ポイントの改善で、次期の見通しはもちあい (0.0) と横ばいの予測となっている。
採算（経常利益）	DI 指数は前期▲37.5 から今期▲24.0 と 13.5 ポイントの改善で、次期の見通しは▲20.0 とさらに改善する予測となっている。
資金繰り	DI 指数は前期▲29.2 から今期▲25.0 と 4.2 ポイントの改善で、次期の見通しは▲12.0 とさらに改善する予測となっている。
販売価格及び仕入れ価格	販売価格の DI 指数は前期 66.7 から今期 76.0 と 9.3 ポイントの良化で、次期の見通しは 60.0 と上昇幅が縮小する予測となっている。仕入れ価格の DI 指数は前期 75.0 から今期 92.0 と 17.0 ポイントの上昇で、次期の見通しは 84.0 と上昇幅が縮小する予測となっている。

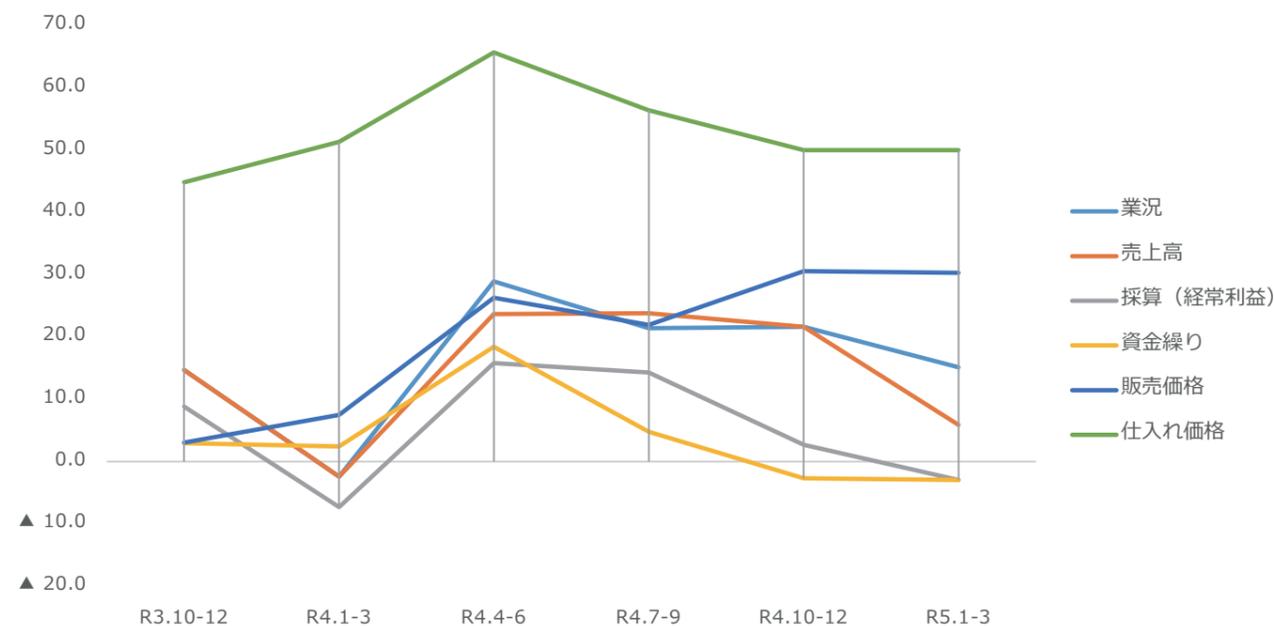
	R3.10-R3.12	R4.1-R4.3	R4.4-R4.6	R4.7-R4.9	R4.10-R4.12	R5.1-R5.3 見通し
業況	▲ 16.0	▲ 36.0	4.3	▲ 16.7	▲ 4.0	▲ 8.0
売上高	▲ 16.0	▲ 36.0	▲ 4.3	▲ 16.7	0.0	0.0
採算（経常利益）	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 30.4	▲ 37.5	▲ 24.0	▲ 20.0
資金繰り	▲ 12.0	▲ 28.0	▲ 17.4	▲ 29.2	▲ 25.0	▲ 12.0
販売価格	28.0	52.0	60.9	66.7	76.0	60.0
仕入れ価格	68.0	80.0	91.3	75.0	92.0	84.0



サービス業の動向

業況	DI 指数は前期 21.4 から今期 21.6 と 0.2 ポイントの良化で、次期の見通しは 15.2 と悪化の予測となっている。
売上高	DI 指数は前期 23.8 から今期 21.6 と 2.2 ポイントの悪化で、次期の見通しは 5.9 とさらに悪化する予測となっている。
採算（経常利益）	DI 指数は前期 14.3 から今期 2.7 と 11.6 ポイントの悪化で、次期の見通しは▲2.9 とさらに悪化する予測となっている。
資金繰り	DI 指数は前期 4.8 から今期▲2.7 と 7.5 ポイントの悪化で、次期の見通しは▲2.9 とさらに悪化する予測となっている。
販売価格及び仕入れ価格	販売価格の DI 指数は前期 22.0 から今期 30.6 で 8.6 ポイントの良化で、次期の見通しは 30.3 と上昇幅が縮小する予測となっている。仕入れ価格の DI 指数は前期 56.4 から今期 50.0 と 6.4 ポイント上昇幅が縮小し、次期の見通しは 50.0 と横ばいの予測となっている。

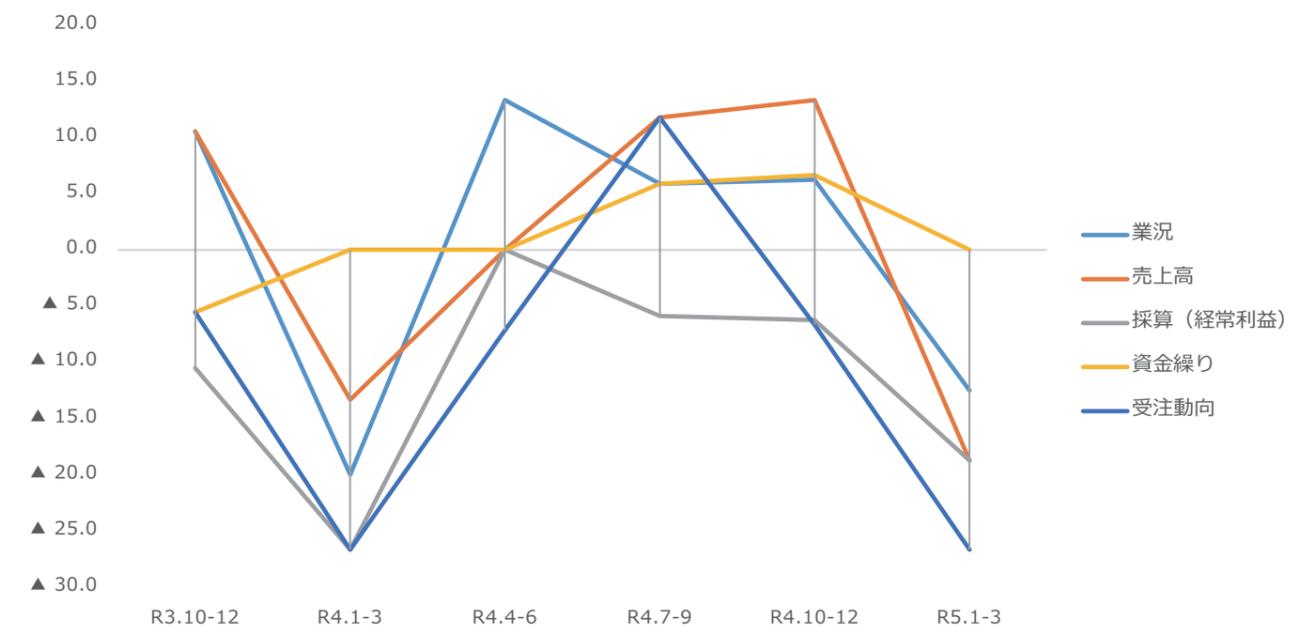
	R3.10-R3.12	R4.1-R4.3	R4.4-R4.6	R4.7-R4.9	R4.10-R4.12	R5.1-R5.3 見通し
業況	14.7	▲ 2.4	28.9	21.4	21.6	15.2
売上高	14.7	▲ 2.4	23.7	23.8	21.6	5.9
採算（経常利益）	8.8	▲ 7.3	15.8	14.3	2.7	▲ 2.9
資金繰り	2.9	2.4	18.4	4.8	▲ 2.7	▲ 2.9
販売価格	3.0	7.5	26.3	22.0	30.6	30.3
仕入れ価格	44.8	51.4	65.7	56.4	50.0	50.0



建設業の動向

業況	DI 指数は前期 5.9 から今期 6.3 と 0.4 ポイントの良化で、次期の見通しは▲12.5 と悪化する予測となっている。
売上高	DI 指数は前期 11.8 から今期 13.3 と 1.5 ポイントの良化で、次期の見通しは▲18.8 と悪化する予測となっている。
採算（経常利益）	DI 指数は前期▲5.9 から今期▲6.3 と 0.4 ポイントの悪化で、次期の見通しは▲18.8 とさらに悪化する予測となっている。
資金繰り	DI 指数は前期 5.9 から今期 6.7 と 0.8 ポイントの良化で、次期の見通しはもちあい (0.0) と悪化の予測となっている。
受注動向	DI 指数は前期 11.8 から今期▲6.7 と 18.5 ポイントの悪化で、次期の見通しは▲26.7 とさらに悪化する予測となっている。

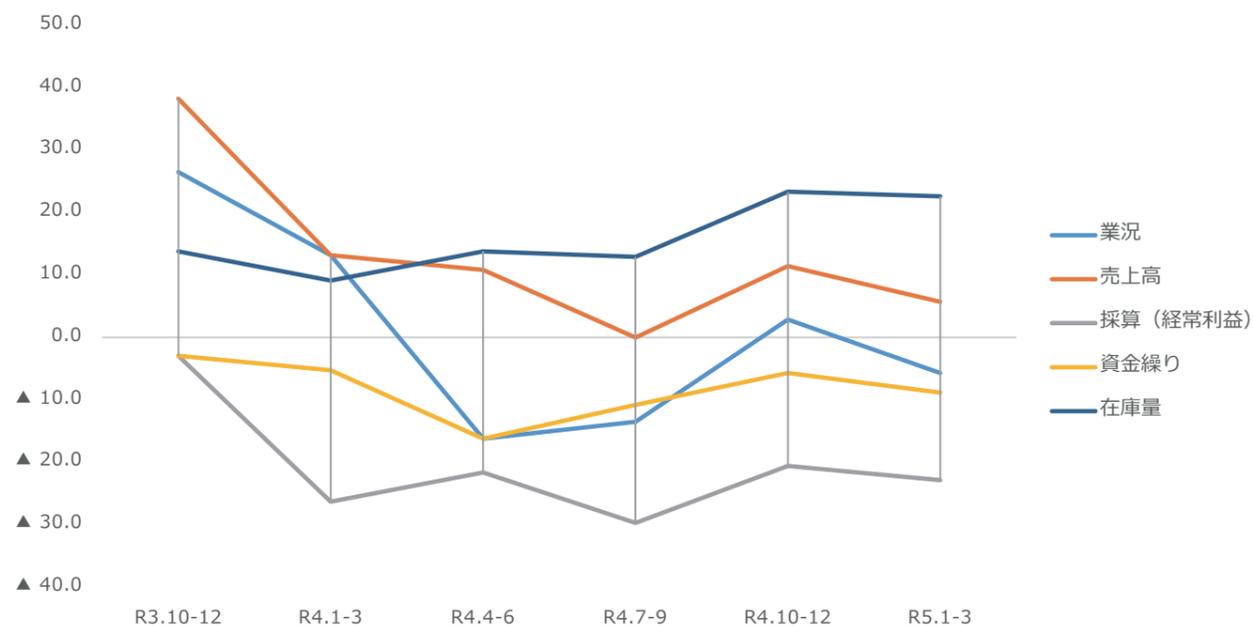
	R3.10-R3.12	R4.1-R4.3	R4.4-R4.6	R4.7-R4.9	R4.10-R4.12	R5.1-R5.3 見通し
業況	10.5	▲ 20.0	13.3	5.9	6.3	▲ 12.5
売上高	10.5	▲ 13.3	0.0	11.8	13.3	▲ 18.8
採算（経常利益）	▲ 10.5	▲ 26.7	0.0	▲ 5.9	▲ 6.3	▲ 18.8
資金繰り	▲ 5.6	0.0	0.0	5.9	6.7	0.0
受注動向	▲ 5.6	▲ 26.7	▲ 7.1	11.8	▲ 6.7	▲ 26.7



製造業の動向

業況	DI 指数は前期▲13.5 から今期 2.9 と 16.4 ポイントの良化で、次期の見通しは▲5.7 と悪化する予測となっている。
売上高	DI 指数は前期もちあい (0.0) から今期 11.4 と 11.4 ポイントの良化で、次期の見通しは 5.7 と悪化する予測となっている。
採算 (経常利益)	DI 指数は前期▲29.7 から今期▲20.6 と 9.1 ポイントの改善で、次期の見通しは▲22.9 と悪化する予測となっている。
資金繰り	DI 指数は前期▲10.8 から今期▲5.7 と 5.1 ポイントの改善で、次期の見通しは▲8.8 と悪化する予測となっている。
在庫量	DI 指数は前期 12.9 から今期 23.3 と 10.4 ポイントの増加で、次期の見通しは 22.6 と減少する予測となっている。

	R3.10-R3.12	R4.1-R4.3	R4.4-R4.6	R4.7-R4.9	R4.10-R4.12	R5.1-R5.3 見通し
業況	26.5	13.2	▲16.2	▲13.5	2.9	▲5.7
売上高	38.2	13.2	10.8	0.0	11.4	5.7
採算 (経常利益)	▲2.9	▲26.3	▲21.6	▲29.7	▲20.6	▲22.9
資金繰り	▲2.9	▲5.3	▲16.2	▲10.8	▲5.7	▲8.8
在庫量	13.8	9.1	13.8	12.9	23.3	22.6



設備投資の計画状況

1) 設備投資の有無

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
あり	7	7	7	3	13	37
なし	11	18	30	13	22	94
合計	18	25	37	16	35	131

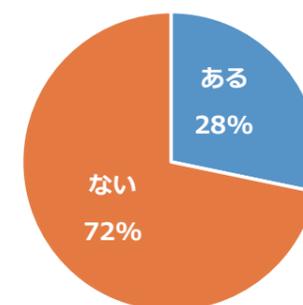
2) 設問1) で「あり」と答えた場合、計画の実行について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
計画通り行う	5	6	4	2	9	26
景気動向によって見直す	2	1	2	2	4	11
見直す	0	0	0	0	0	0
合計	7	7	6	4	13	37

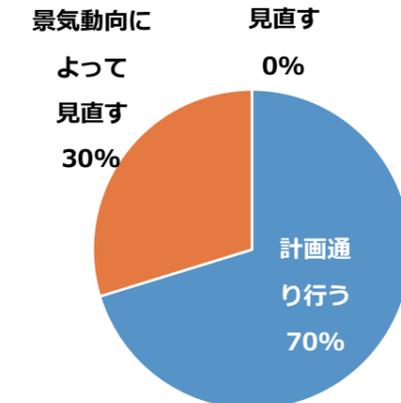
3) 設問1) で「あり」と答えた場合、計画の内容について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
合理化省力化	1	1	0	1	6	9
設備更新	4	4	5	2	5	20
生産力増加	2	1	1	0	1	5
その他	0	1	1	0	1	3
合計	7	7	7	3	13	37

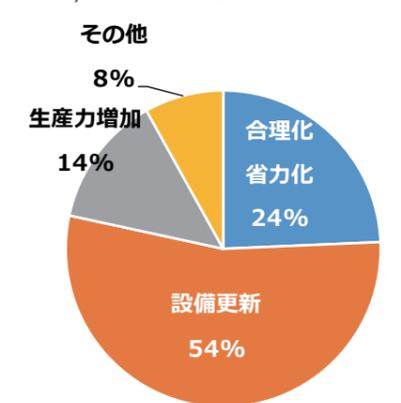
1) 設備投資の有無



2) 計画の実行について



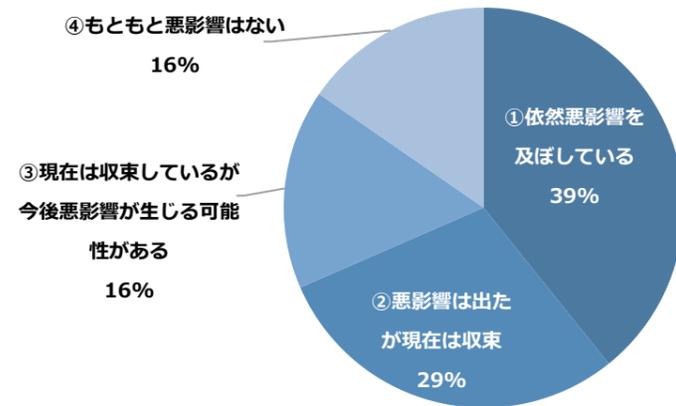
3) 計画の内容について



新型コロナウイルス、原材料価格上昇、世界情勢に係る影響

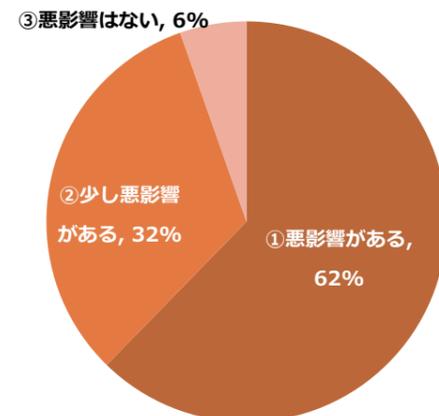
1) 現在の新型コロナウイルスの事業活動への影響について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
依然、悪影響を及ぼしている	12	11	10	2	16	51
悪影響は出たが現在は収束	3	7	14	3	11	38
今後悪影響が生じる可能性がある	1	4	4	7	5	21
もともと悪影響を受けていない	2	3	9	4	2	20
合計	18	25	37	16	34	130



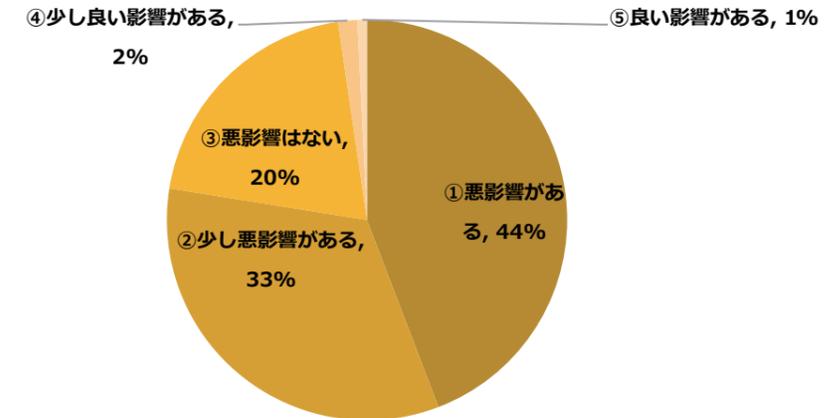
2) 原油・原材料価格上昇の影響に関する事業活動への影響について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
悪い影響がある	11	18	15	12	25	81
少し悪い影響がある	7	7	17	3	8	42
悪い影響はない	0	0	5	1	1	7
合計	18	25	37	16	34	130



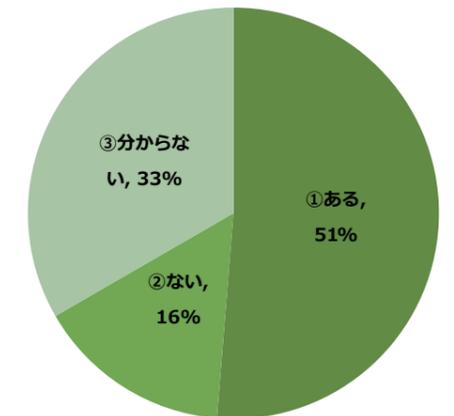
3) 円安の影響に関する事業活動への影響について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
悪影響がある	9	16	10	6	16	57
少し悪影響がある	8	6	12	7	10	43
悪影響はない	1	3	15	2	5	26
少し良い影響がある	0	0	0	0	2	2
良い影響がある	0	0	0	0	1	1
合計	18	25	37	15	34	129

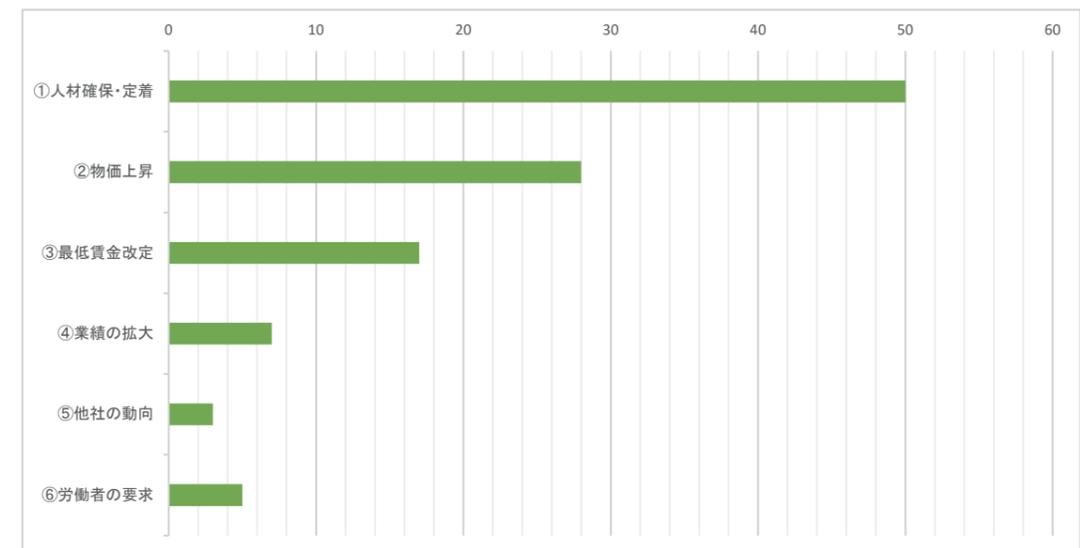


4-1) 賃金引き上げ予定の有無について

	卸売業	小売業	サービス	建設業	製造業	合計
ある	6	4	18	10	22	60
ない	3	8	3	0	4	18
未定	7	8	11	5	8	39
合計	16	20	32	15	34	117



4-2) 賃金引き上げの理由について



業種別自由意見

●卸売業

良

- ・お客様の業績は、70%～80%の会社はよいのではないかと。売上は伸びている。
- ・原材料の価格上昇による。商品価格の高騰で、今まで値上できなかった商品の価格見直しできた。
- ・まだコロナ禍ではあるが、3年ぶりに新年会が全員参加で実施できた事。
- ・人出は多少戻った感じ。

悪

- ・メーカーの年に複数回の値上げがあり厳しい状況であるに加えて半導体不足の影響で商品の入荷も遅れている。この状況がしばらく続きそうな点が懸念点。
- ・仕入原価の上昇は今年も続く。販売価格も上昇することによって、買い控えがさらに増加。
- ・部品、製品のサプライチェーンが寸断。見通しが立たない。
- ・国内の大企業が海外へ目を向けている為、国内の中小企業は厳しいままだと思う。
- ・世の中の急な変化について行けず、先行き不安を日々感じてしまっている。
- ・お金が回っていない感じがする。

●小売業

良

- ・ネット販売は好調。・天候。
- ・旅行支援(国)、しが割(県)、PayPay(市)などで利用者が増加。
- ・滋賀旅、滋賀割で需要の喚起を期待。
- ・11月に関してはPayPayしが割で良かったように思う。
- ・単価が上がった分売上が伸びているが、受注数は同じか減っている。

悪

- ・店頭販売は悪化、販売価格が上昇。・物価高。
- ・一般消費品の値上げにより、レジャー産業の購入比率が低下。
- ・鶏インフルエンザの発生で、鶏と卵の仕入価格上昇中。販売価格に転嫁できないので大変である。
- ・全ての材料が1年のうちに何度も値上げしているので、利益が出ずに厳しい状態が続いています。
- ・旅行支援(国)、しが割(県)、PayPay(市)などで利用者が増加。こういったことに慣れてしまうと割引が当たり前。本当にこれでいいのか？
- ・仕入価格の上昇が激しく、収益悪化が著しい。
- ・コロナをいつまで特別扱いするのか。どこの病院でも受診できるようにすべき。無症状の濃厚接触者待機は必要ない。
- ・急激な物価上昇は、様々な混乱を招く。適切な物価対策を望む。
- ・店舗、通販において商品の値上げが響き、売上が顕著に落ちた。
- ・法人や団体等が開催する大型宴会が未だ低調。
- ・12月は多くの人々が彦根に流れたようで悪化。・仕入原価の値上げが止まらない。

●サービス業

良

- ・国や県の補助金等支援が活用しやすい。・全国旅行割のおかげで客集アップできた。
- ・業界としては悪化していると聞かすが、今のところ依頼も含め変わりない。
- ・with コロナの風潮が人の集まる機会を増やしつつあるので行事等が少しずつ戻ってきている。
- ・コロナ初期は人と人がいがみあう風潮があったが、今日頃は対ウイルスと人との関係となり行動範囲も広がり、消費も拡大傾向。

- ・with コロナの雰囲気が高まり、消費者の行動が活発になったため客足が良くなった。
- ・経営戦略(売価、販促等)、必要経費の見直しが進み、損益分岐を落とせる見通しが立った。

悪

- ・世間の景気感が悪化。・部材等の価格上昇が続いている。
- ・半導体不足の影響は続いており、一部の機器について入荷の遅れがある。
- ・物価の上昇に販売価格転嫁が追いつかない。
- ・コロナ感染による従業員のやむをえない欠勤が出た場合の現場維持。
- ・コロナで団体客がなくなっている。仕入価格あがる。ランニングコスト。
- ・ガソリン高、消費者の意識がシビアになり契約に結びつかないこともある。
- ・原材料の値上げが大きい。しかし価格に転嫁しづらい。
- ・光熱費関連の上昇は利益を削がれ、飲食業は経営的に悪い内容がつづく。
- ・建設費高騰の中、予算内で建設するのが困難の中、またR5年度4月以降建材メーカー各社定価値上げの情報が入っている。新規受託、計画延期が多い。計画延期も、各資材が下がる見込みもなく、難しい。
- ・仕入れ価格の高騰で苦しい状況。
- ・人材が少なくなれば、すぐ売上がさがる業界。でも最低賃金は上がっていくので厳しい。
- ・コロナ禍により生じた負債がある為、多少の上振れでは経営が成り立たない。

●建設業

良

- ・今までにない切り口で仕掛けている。
- ・受注好調。

悪

- ・受注活動に尽力が必要となる。・原材料、資産の高騰。
- ・原価を売価に反映するのが厳しく、採算悪化、顧客の予算と要望が合わず話が立ち消えになる事も多い。
- ・電力、原材料価格上昇も価格転嫁が追い付かない。

●製造業

良

- ・体質改善をする好機。
- ・取引の問い合わせが活発である。物価上昇に伴い商品の価格に転嫁できた。
- ・取引価格の交渉をするチャンスでもある。困難ではあるが…。
- ・材料入手リードタイムの若干の短縮。
- ・円安、インフレに伴う物価、諸経費の上昇とともに自社工費の値上げも合わせてお願いできた。
- ・前期よりは注文が増えた。

悪

- ・自動車の生産調整が続いており、今後も終息の気配が見通せない。
- ・輸送コストの大幅な上昇に伴い、商品コストも大幅に増加した。利幅が減った。
- ・物価上昇と長期金利の上昇により住宅購入マインドが低下している。
- ・人材不足。仕入価格(鉄)の上昇。
- ・先行きが不透明で長期的な計画が立てられない。
- ・原材料、工具、電気代の上昇。
- ・原材料、在庫過多。
- ・コロナや円安、インフレの動向、影響により先行きまだまだ不安な要素が多い。経費削減、効率化、新規事業にも努めているが、雇用調整金特例制度のもうしばらくの延長があればと思います。
- ・原材料の高騰や燃料費、人件費などの値上がりにより、採算が悪くなった。

【参考】滋賀県景況調査結果報告書

滋賀県では、県内の景気動向の把握を目的として、四半期毎に景況調査を実施しております。今期（令和4年4～6月期）の調査結果の概要は次のとおりです。過去の景況調査報告書については、滋賀県公式HPをご覧ください。
 滋賀県公式HP：<https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangyou/syougyou/300168.html>

【調査概要】

- ①回答受付期間：令和4年10月27日～11月11日
- ②調査対象企業数：県内の事業所(750社)
- ③送付方法：郵送アンケート
- ④回答企業数：376社(回答率50.1%) ※大企業26社、中小企業350社(うち小規模事業者119社)

	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	合計
大企業	12	1	0	5	8	26
中小企業	120	69	30	38	93	350
合計	132	70	30	43	101	376
(業種別比率)	35.1%	18.6%	8.0%	11.4%	26.9%	100.0%

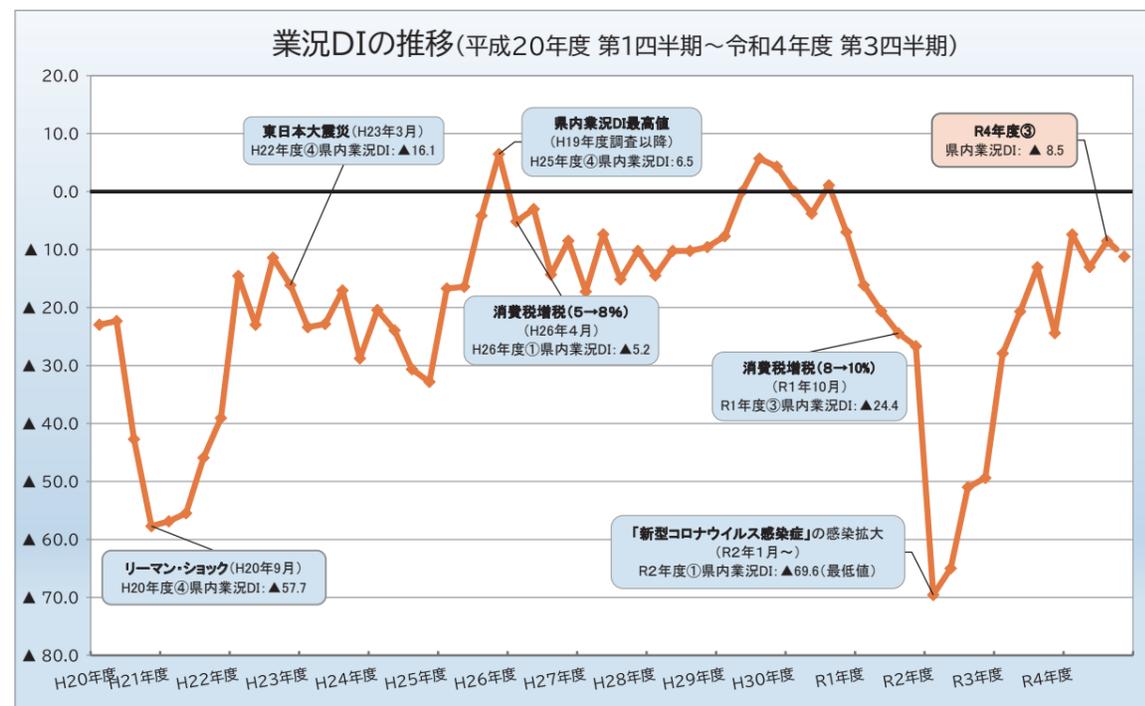
【結果の概要】

- ・【全体】今期は▲8.5と、前期と比べて4.5ポイント改善した。来期は▲11.2と、マイナス幅が拡大する見通しである。
- ・【規模別】大企業では▲11.5とマイナス幅が拡大し、中小企業（小規模事業者を含む）では▲8.3とマイナス幅が縮小した。来期は、大企業が▲3.8とマイナス幅が縮小し、中小企業は▲11.7とマイナス幅が拡大する見通しである。
- ・【業種別】前期と比べて、サービス業・製造業・建設業で改善し、卸売業・小売業で悪化した。来期は、卸売業と小売業はマイナス幅が縮小する一方、サービス業はプラス幅が縮小し、製造業と建設業はマイナス幅が拡大し、業種によって見通しに違いがみられる。

※本調査でのDI(ディフュージョン・インデックス)：「増加(好転・上昇・過剰等)」と回答した事業所数の構成比から「減少(悪化・低下・不足等)」と回答した事業所数の構成比を差し引いた値である。

※今期：令和4年10～12月期、来期：令和5年1～3月期

※業況、生産、売上、経常利益、雇用の水準は昨年同時期と比較した回答、在庫数量、資金繰り、引合いは今期と来期の状況についての回答である。



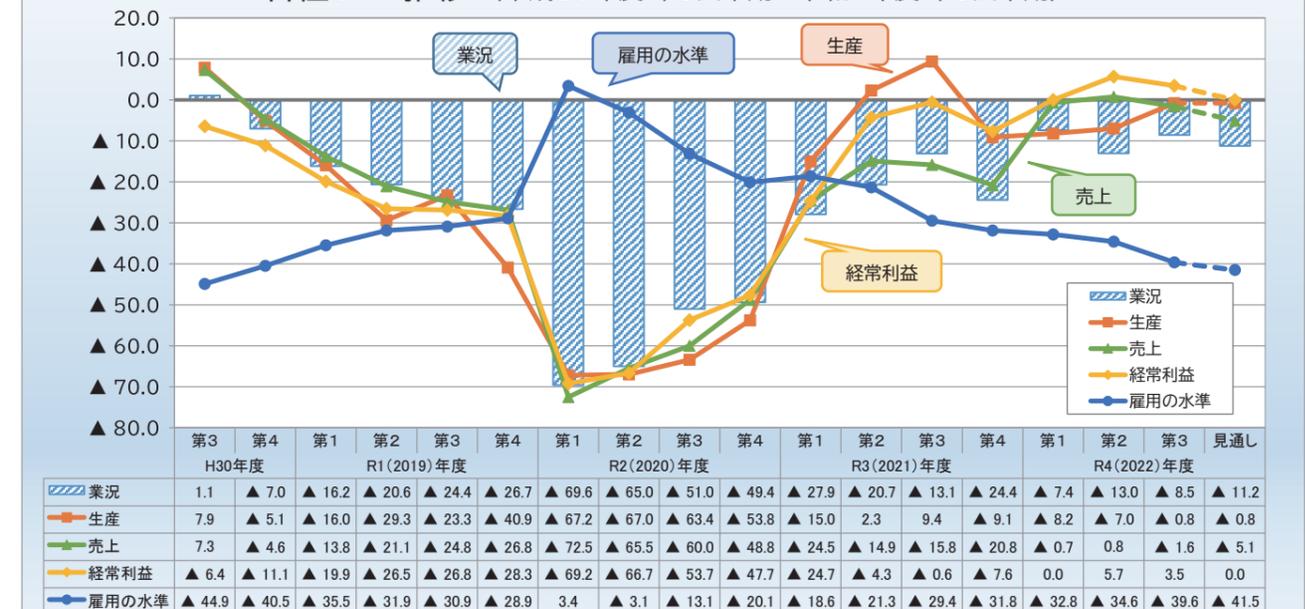
各種DIの推移 (平成30年度 第3四半期～令和4年度 第3四半期)



【今期(令和4年10～12月期)の景況】※前年同時期との比較
 業況・生産の各DIはマイナス幅が縮小、売上DIはマイナスに転じ、経常利益DIはプラス幅が縮小した。
 雇用の水準DIはマイナス幅が拡大し、不足感が強まった。

【来期(令和5年1～3月期)の見通し】
 業況・売上の各DIはマイナス幅が拡大し、経常利益DIはプラス幅が縮小し、生産DIは同水準の見通し。
 雇用の水準DIはマイナス幅が拡大し、不足感が強まる見通し。

各種DIの推移 (平成30年度 第3四半期～令和4年度 第3四半期)



【今期(令和4年10～12月期)の景況】※前年同時期との比較
 業況・生産の各DIはマイナス幅が縮小、売上DIはマイナスに転じ、経常利益DIはプラス幅が縮小した。
 雇用の水準DIはマイナス幅が拡大し、不足感が強まった。

【来期(令和5年1～3月期)の見通し】
 業況・売上の各DIはマイナス幅が拡大し、経常利益DIはプラス幅が縮小し、生産DIは同水準の見通し。
 雇用の水準DIはマイナス幅が拡大し、不足感が強まる見通し。